

# 分科会「保存運動」

—全国手話研修センターの聾史資料室(仮) 設立をめざして—

司会・内田博幸 助言者・桜井 強

●内田 皆さんこんばんは。朝からお疲れ様です。ただ今から分科会「保存運動」というテーマで、皆さんと討議を行ないたいと思う。助言者は桜井さん、私は司会の内田です。よろしくお願ひします。まず、皆さんの自己紹介から始めたいと思う。住所と名前をよろしく。

●百瀬 こんばんは。長野県松本市から参加の百瀬です。松本ろう学校の卒業で、内田さんは先輩です。名古屋ろう学校専攻科に進学し、現在は松本市で仕事をしている。

●長尾 こんばんは。長尾です。岐阜県からの参加です。昨年に引き続き2度目の「保存運動」参加で、時間まで存分に討議しましょう。よろしく。

●松延 松延です。京都大学大学院の図書館員として勤務。保存運動のことでは、以前の経過などは承知している。とにかくよろしく。

●戸田 富山の戸田です。自宅で木彫の仕事をしている。初めての参加。経過などは全く知らないが、とても大切な問題と思う。よろしく。

●新開 大阪から参加の新開です。北海道大会に続いて2回目の参加になる。分科会選択の理由は、今後手話が言語として認知されていくためにはどのような運動が必要なのか、新しい情報が欲しかった。地元の様子なども考慮して参加した。現在、青年部の活動をしている。よろしく。

●塚田 京都から参加の塚田です。保存運動とはどのようなことなのか？皆さんと会えて嬉しい。よろしく。

●芳本 奈良から参加の芳本です。5年前の大阪大会の時に参加し、パンフレット(表紙)に“聾史資料館の夢”の絵が掲載された。今回保存運動の分科会が設けられ、大変嬉しい。よこ道にそれないように真面目に討議していきたい。よろしく。

●川上 川上です。富山在住です。健聴で手話を学習中。最近、聾史に興味をもつようになった。参加できて嬉しい。よろしく。

●幸山 こんばんは。幸山です。富山在住です。初めての参加。今年度登録通訳者になり、様々な



活動に頑張りたい。

●中根 北海道から参加の中根です。昨年札幌大会の折に保存運動が必要と思い、「新しい分科会の提唱」を訴えた立場上、継続参加が必要であると思った。皆さんと一緒に討議したい。

●中沢 初めてお目にかかる人が半分くらい。中沢です。東京都在住です。不便なところに住んでいるので乗換え等で大変だった。今朝は6時の新幹線だったので、少し眠い。東京にも高齢者は多数いる。これから先をどのように考えていくのか不安に感じている人はいる。何か保存センターのような物があれば良いという意見があり、私も同感。よろしく。

●美多 隣県の石川から参加の美多です。聾史資料室が設立されるらしいので、楽しみにしている。よろしく。

●大杉 皆さん、お疲れ様です。大杉です。この学会に参加は初めてです。会員ではあるので、皆さんと共に活動していきたい。僕も中沢さんと同じく6時の新幹線で来たが、会わなかったね？とにかく2時間の討議よろしく。

●桜井 こんばんは。自己紹介ありがとう、嬉しく思う。昨年保存運動の分科会があったようだが、僕はろう教育分科会の助言者だった。全部を把握しているわけではない。いくつか知っていることがあるので、まず僕から話したい。全国手話研究所運営委員をしているが、この組織については後で説明したい。僕は愛知県在住である。日本聾史学会の事務局長を担当して7年になる。全国手話研修センターの中に日本手話研究所がある。「聾史資料室設立をめざして」というテーマを掲げているが、今後の運動の方向性などを皆さんひとりひとりの意見を聞き、大切なことは何かを考えな

から設立して行きたい。ご協力をよろしくお願ひしたい。

●内田 18:30~20:30の分科会であるが、桜井さんには前半1時間を基調報告してもらおう。その後皆さんの討議に入るが、全体会での報告者を決める必要がある。(休憩時に決める)発言は、前方に出てきてからにして欲しい。まず、桜井さんをお願いしたい。

●桜井 保存運動が起こるきっかけをご存じない人もいると思うので、経緯を改めて話したい。聾史資料室設立の背景を知る必要があると思う。5年前にアメリカのデフウェイIIに参加し、非常なショックを受けた事が大きいと思う。日本には無いので、考えなければならぬと思ったことが1つ。日本では明治11年に京都で設立されたが、アメリカの方が歴史は古い。更にヨーロッパはもっと深い歴史を刻んでいる。アメリカでは、文化や歴史をきちんと打ち出している。

午後の研究論文で発表したように、過去の歴史を知らなければ未来は無い。アメリカでは、過去を学べるような方法で展示をしている。同じような物が日本にもあったら良いと思いはじめた。

アメリカではろう者の作品、例えば絵画や写真などが展示されていて誰でも鑑賞できる。とても素晴らしい。「デフ・アイ」というろう者の目としてスタート。これらの写真は、作品の一部とオープニングの様子です。向かって右端の男性は、ギャロデット大学のキング・ジョーダン学長。大学史上初のろう者の学長です。情熱を胸に帰国後、芳本さんがおっしゃった2002年大阪大会の参加パンフ・資料を作成した事を覚えている。その大会の壇上で「ギャロデット大学はすごい!」と話し、資料館の必要性を強く要望したことはご存知の方も多いと思うが、5年前のことだ。三役会でも訴えようやく必要性が認識され、学会としての方向性が決定された。この写真は、翌年の宮城大会の運営委員会での様子だが、そこから本格的な運動が始まった。

様々な課題はあったが2年間休眠状態だった。日本手話研究所所長の高田英一氏との意見交換を申し入れたのがきっかけだった。京都へ出かけて行った際の写真です。ここにいる何人かの人も一緒だった。案内されて、部屋の様子なども見て廻っ

た。その後、2時間ほど意見交換を行い、今後の方向性を相互に確認していく事になった。

昨年6月に日本手話研究所の運営委員就任の打診があった。僕自身かなり迷い、周囲の人や家族に相談すると、「引き受けた方がよい」と温かく応援してくれたのでようやく決心することが出来き、聾史資料室の責任者として現在に至る。昨年の札幌大会には是非参加したかったが、以前からろう教育の分科会の助言者をするとの約束があったため、連盟の西滝さん・北海道庁の一色さんに助言者を依頼した。詳細は、報告書を読んで欲しい。京都に行った事が無い人のために、京都の地図です。全国手話研修センターは、嵯峨嵐山の駅から徒歩1分もかからないところです。有名な観光地である渡月橋の近くでもある。JR嵯峨嵐山駅のホームから直ぐ見えるところに全国手話研修センター本館がある。

聾史資料室は、日本手話研究所の隣の建物にあり、元々は職員寮です。2階建てで現在は入居者はいないが、アルバイトの一人が暮らしている。各階に4戸、合計8戸。部屋に入ると資料が山積みになっていて、資料等は未整理の状態。だが、コンピューターのデータは作成してあり、一部は整理済み。この写真は、2年前の聾史学会に呼ばれて意見交換した時の資料がそのまま収められているもの。

問題は、本棚などの設備もない、資料を整理する人材を雇う資金もないということで一時保存していることである。これらの写真は、8ミリフィルムが山積みになっている状態です。中にはフィルムがよれているものもあり修正が必要だが、それには専門知識が必要になる。僕自身は専門家ではないが、ろう者で専門知識を持っている人がいるので今後依頼することになると思う。この写真は、皆さんご存知の全日ろう連初代会長藤本敏文氏の色紙です。絵は、カップで有名な島根県の浜田ろう学校の教諭で、本日の大会に参加して、先ほど質問されておられた年配の女性、藤田たか子さんのご主人が描かれたものです。有名です。

さて、このレイアウトは日本手話研究所所長の高田英一氏が書かれたものです。先ほど説明したように各階4戸であり、本当はワンフロアにするのが良いとは思いますが、資金の問題がある。止む無

く2つに区切り、資料の閲覧やコピーが出来るような構想になっている。これは、図面を基に立体模型にしたもの。細かい動線などの検討はまだだが、資金の用途が出来たら書庫室は増設していく予定。

書棚や閲覧室などの立体模型の内部です。レイアウトの立体模型は、両極点到達された千葉県の上野谷さんに依頼した。

資料がどのようになっているのか全くわからずに、行って初めて現状がわかった。今後の課題としてはここに掲げてある。資料を持ち込んだのは、京都の中西氏や神戸の和田ひでお氏や京都の伊東先生など大勢の方々である。資料のほとんどは、終戦後のものから安保闘争の頃のものが多く、戦前のものや戦後のものは少ない。もっと収集したい。

8ミリフィルムに関してはよれていたり腐食していたりするので、専門知識のあるろう者に依頼し、現物をみてもらい修復が可能か否かを調べる予定でいる。プリントやネガは日付や場所などを明記しなければならないがかなりの量があり、それらをまず整理するのが大変だと思っている。

今後考えている事は、まず設立に向けて組織をつくりたい。まず1図書2映像3作品の3部門からなり、1図書部門には書籍と新聞2映像部門には8ミリと写真・ビデオ3作品部門には色紙や各種スポーツ大会などのトロフィーやメダルと分けたい。

書籍の整理方法は、「日本十進分類法」というものがあるので従いたい。資料保存のノウハウは、専門の団体「全国歴史資料保存利用機関連絡協議会」があり、僕自身は知識が無いが、今後は勉強会のような企画を立てて、僕だけではなく一般会員にも呼びかけて共に学びながら、保存運動のボランティアやサポートできる人を集めたいという構想は持っている。今後は、手話研究所と一緒に企画を考えていきたい。8ミリやビデオテープなどは、今後はDVD化が良いのかなどを含めた映像の標準化を皆さんと討議しながら考えたい。

歴史資料室は皆さんの財産です。何故なら、ろうあ運動の財産であり、差別との戦いの歴史を知ることが大事なことだ。過去のろうあ差別を考えることは、未来を見据える時には大事なこと。皆さんと共に考えていきたい。未来を担う若い人たちに伝える義務が私たちにはある。皆さんと一緒に

に討議を深めていきたいと思う。ありがとう。

●内田 桜井さんのすばらしい基調報告でした。ありがとう。意見・質問などがあれば、挙手して前方で発言をして欲しい。

●芳本 報告は良くわかった。全国各地で起きていることだが、図書館で借りた本などに無断で傷をつける人がいることを危惧している。また、盗まれてしまった時はどうするのか？貴重な価値ある大事な資料が、消滅してしまったらどうするのか？保護するためにはどのような方策があるのかを議論したい。

●桜井 良い意見をありがとう。発行部数が少なく価値のある希少品（レア物）は一般貸し出しを禁止することや、部屋以外への持ち出しを禁ずるような仕組みを考えている。どうか？

●芳本 無断で持ち出されたり、傷つけられたりすることが心配なのだ。

●中根 いままでそのような体験はあるのか？

●芳本 ええ。

●中根 ほう？そうなのか。

●百瀬 監視カメラの設置はどうか？

●桜井 悪く考えがちだが、ろう者は良心を持っている。最低限のマナーを守ってくれば嬉しい。ろう者の仲間である人たちの汗と涙の歴史である事を理解してもらえれば嬉しい。

●中根 一般と専門のものとは別だ。

●戸田 芳本さんが言われたとおり、僕も全く同じ考え。今までに図書館に通って知っているが、先ほど監視カメラの提案も出されていたが、そのようなものは設置されていない。借りたい本を申し出て、書名や番号などを控える。高価な本は借りられない。必要ところを申し出てコピーしてもらい、代金を支払う。通常の貸し出し期間は1週間。返却を忘れていると連絡が来るが、延滞金などは不要だ。通常は貸し出しカートなどを作っていると思うが、そのような方法ではどうか？

●長尾 僕の経験をお話すると、古典本など古い本を借り受ける時には、まず職員に申し出て同行してもらおう。本を借りる目的は記録をするためだが、許可があれば職員は監視のために傍についている。監視カメラなどを設置した場合には経費がかかってしまう。職員が同行する方法ではどうか？

●芳本 職員同行とのことだが、僕は余り無い。

資料を調べている時間は長くなるし、傍で監視されて急かされる。逆に忙しい職員に迷惑をかけてしまう。同行してもらうのは難しい。また人件費もかなり高くなるのではないかと安価なカメラもあり、監視していれば盗難は防げる。建物全てに必要なものだと思う。先日、横浜市の図書館では年間6000冊にも及ぶ本が破損などの被害を受けていると報じられているのを見て非常に驚いた。それと同様なことが発生する恐れがあるという危惧を抱いている。是非、盗難や破損を防ぐための論議をして欲しい。

●中根 芳本さんの話されたとおり。僕も同じ新聞を読んで、本当にひどいと思った。設立を目指している郷土資料室は、普通の図書館と違うと思う。皆が知恵を出し合って、努力してつくるもの。図書館の中には必ず郷土資料室がある。郷土資料室のものは事前許可が必要で、持ち出しは認めていない。一般の書籍や研究用の資料などは短期間の貸し出しはしているが、郷土資料室のものはまったく別の考え方だ。郷土資料室に保存されている資料を閲覧したい場合には、必要な資料を申し出て、職員が厳重な保管庫から持ってきて、職員がその場にいるところで閲覧するシステムになっている。同じ方法ではどうか？

●松延 図書館は公的な施設です。誰でも自由に来られる。非常識な人もたくさんいるし、中には本への書き込みをする人もいます。困ったものだ。だけど、僕たちが設立を目指している資料室の内容は違う。郷土資料室は、以前というか古いと言うか、資料が埃まみれで積み上げてあり、取り出すと塵や埃が舞い散って防塵マスクでも必要なところだ。そこと一般のきれいな図書館は全く違う、混同しないでほしい。郷土資料室は、一般とは異なって研究目的で行くところだと思う。保存してある資料も古い。受付で身分を確認できれば良いと思う。それほど大きな規模ではなく、沢山の来館者が来るわけでもない。人数が確認できればよい。研究目的で来館する人がほとんどと思う。それらの人たちは、マナーを守ってくれると思う。一般の図書館とは別の目的であることを判って欲しい。

●桜井 各人のご意見をありがとうございます。来館する人たちはマナーを守り、良心を持って閲覧してくれ

れば嬉しい。先ほど中根さんがおっしゃったとおり、郷土資料室並みのルールや統一基準作りは今後取り組みたい。研究者にとっては全国にひとつしかないところであり、きちんとマナーを守ってくれれば貸し出しは出来るのではないかと僕自身は考えている。そのような環境をつくりたい。良心を持っていけば、誰にでもオープンにしていきたい。もし何かトラブルが発生したときの対処法は、これからの論議の課題となる。資料室を設立する目的などの意見を集めたい。

●芳本 意見です。資料の収集方法はどのようにするか？寄付によるのか？資料が重複した時にはどうするか？全て保存するのか、処分するのか？

●桜井 ありがとう。

先ほど、僕の報告の際に写真を見てもらった。同じ本が数冊ずつあった。これらを処分するのかわくは、これからの問題。運営委員会があるので、そこで論議したい。良いご意見ありがとうございます。処分方法など、僕自身も困っている。

●中根 同じ資料が重複することはよくあることだ。それを処分するのではなく、将来的には京都だけではなく、北海道からも行きやすい分室（話だけで全く具体的ではないが…）を設立する時に必要になるのかもしれない。だから、保存しておけば良いと思う。

●桜井 ありがとう。資料室の運営をどのようにしていくのか？例えば1文化庁からの支援で司書や職員を設置する。2全日ろう連や手話研修センターと同じように民営にするどちらにするのかの決定はまだである。僕個人としては、国が責任を持つのが良いと思う。ろう者も国民の一人。視覚障害者の図書館は国立である。同じく国が責任を持つべきであると考えている。だが、難しい面はいくつかある。これからどのようにするのか、文化庁や関係者と意見交換をしながら良い方向を出していきたい。時間はかかるが、皆さんの応援をよろしくお願ひしたい。

●中沢 昨年札幌の大会に参加した。先ほどの写真を見ると、住人が生活していたアパートに資料を保存しておくというのは、カビや油などで貴重な資料に影響があるという話も聞いた。湿度や温度などきちんと管理された部屋に保存すべきだという話を聞いたが、どうなっているのか？新築で

はなく改築ですね？日本は湿度も高く、山積みしては駄目だと思う。

●桜井 私が訪問したのは9月の上旬頃。状態の良い部屋もあるし悪い部屋もある。年に数回の風通しや虫干しなどの管理を、地域のボランティアに依頼するほうがまだましだ。人件費や管理費など様々な課題がある。また、建物の運営をする条件が厳しい。本当は取り壊して別の場所に新築する方が良いが、いくつかの問題がある。運営委員会に課題を出して協議したい。問題は資金だということをご皆さんに理解してもらいたい。

●中根 書籍の管理は必要だ。管理に必要な条件は何か、松延さんに教えて欲しい。

●松延 資料の状況により変わると思うが…。

●中根 資料や書籍などを保存するときの温度や換気などだが…。

●松延 書籍は非常に重い。2階に書籍が保存されているとかなりの重量になる。地震などの発生時にちゃんと支えられるのか、強度は確保できるのかなどを考える必要がある。

●桜井 中根さんは、資料を平積みしないで書棚にきちんと並べるなどの保存条件を聞いているのだと思う。箱に詰めて何年も開けないのは駄目だというような最低限必要なことは何か？

●芳本 書棚に入りきれない資料を山積みしておく、虫食いなどで本が傷むと思う。保存状態をどのように維持していくのか？整理や保存をきちんとするためにはどのような方法があるのかを聞いているのだ。例えば、寄付などで大量の書籍が持ち込まれ、書庫にも入り切らず山積みになっている。下方の書類を取り出そうとしたら、カビが大量に生えていたとしたらどうするか？カビや虫を防ぐにはどうしたらよいのか教えてほしいという意味だ。

●松延 カビは専門業者に依頼して取り除くことが必要。有料だ。僕の大学でもそうだが、国からの補助金も減額になり書庫に入りきらず資料や書籍が山積みになっている。現在山積みされている資料に関しては可動式の書棚などを考えなければならないが、それらの機械を取り付けるにはかなりの重量があるので2階では無理かもしれない。広い部屋と可動式の書棚は必要であり、どのみち資金は必要だ。どこでも頭の痛い問題である。

●戸田 カビや匂いの問題は、建設時の様々な条件によると思う。図書館に行ったときには、集塵機や除湿機のような物があった。それほど高価な機械ではないと思う。持ち運びが出来るようなものだった。8ミリフィルムなどは別の方法で保存していく事を考えなければならない。

●桜井 8ミリフィルムは迅速に修復して、DVDなどに保存すべき。元の8ミリフィルムが駄目になったら、保存が出来なくなる。問題は、資金と人材。8ミリフィルムがよれたり捻じれたりしているものは、薬品処理を行いアイロンなどでシワを伸ばし、DVD化する事が先決です。そのためには人材や技術・資金が必要になる。昭和20年・30年代の生きた手話が保存されている、すごいですよね。それがあれば研究材料として使えるわけでしょう？ですから、8ミリフィルムの作業をまず行いたい。問題は資金ですね。様々な課題は、運営委員会で協議したい。問題提起、ありがとう。

●中根 手話研修センター内に聾史資料室が設立されるが、保存する部屋が無いと困るわけです。先ほどのレイアウトを見ると、保存作業のスペースが無いようだがどうか？また、「言葉狩り」を知っているか？以前、差別用語の禁止と言うことで色々な言葉が無くなってきたように、標準手話の研究で様々な言葉が発表されてきているが、古い手話がどんどん廃れて、消えている。これには僕は不満に思っているのだが、きちんと保存して検証していく事が大切なことだ。「古手話」を保存し記録していく事は、保存運動の大切な要素のひとつであり、基本の考え方として掲げていくべきであると思う。標準手話を増やすために古い手話が消えていくことは残念であると思っているが、研修センターとしてどのように考えているのか知りたい。

●桜井 ありがとう。僕と同意見である。繰り返しになるが、8ミリフィルムの資料整理が大事である。記録されたものは生きた手話であり、研究材料として貴重なものとなるはず。過去を振り返ることの大切さは先ほど話したとおり。統一標準手話が広がっているが、地域の手話表現を大事にして保存し、古い手話は残していくという考え方である。DVD化して記録保存し、きちんと整

理していく。年配者の数も減ってきており、話を見る機会も少なくなっている。我々にとって、映像を見ることはとても大切なことだ。記録保存されたDVDは大切な研究資料となる。一日も早いDVD化が必要だ。

●大杉 日本手話研究所に8年間、一生懸命に応援してきた。中根さんがおっしゃられたことは良くわかる。新しい手話を作って発表していく事を担当してきたわけだが、今言われたことは胸が痛い。全国に共通する手話があってもよいが、年配者の手話を消していくというわけではなく、並行して行なっていくという考え方だ。それは、全日ろう連も手話研究所もきちんと打ち出している。

その考えが曲解して受け止められている地域があるのだと思う。古い手話は保存しなければならぬのは、同意見である。資料収集と整理、以前の8ミリフィルムを修復し、大事なものはDVD化する事を桜井さんをお願いしている。それとは別に、京都の70歳以上のろう者を研修センターの地下スタジオに招き、いろいろな話をインタビューしている。インタビュアーも60歳代の人に依頼している。若い人では話が通じないと思うので、年代の近いオカクラ事務長が諸先輩に話を聞きながら保存していく作業を進めている。

まず、京都でモデルを作成し、来年の3月までにはその作業は終了する予定。みんなが見られるための方策を研究していく。次に、僕が発表した山地さんの映像がたくさん保存してある。許可が得られれば、ライブラリーとしたい。手話研究所と桜井さんが一緒に意見をつき合わせている。

全通研が、「手話この魅力あることば」など映像として保存してきた歴史がある。100本を越えるビデオテープを製品化している。先日たまたま目録をみていたら、亡くなられた方が沢山いる。また、良い手話が多い。テープは編集したので短い、編集する前の原本であるテープはずいぶん長い。新しいテープもあり、古いものもある。それらを資料室と上手く繋げていくためにはどうするのかという議論も行っている。

●中根 「古い手話は駄目だ」という考え方や言い方が、まだ北海道にはいくつか残っている事が問題であると言いたい。手話研究所の北海道のメンバーが、古い手話は駄目だというのはおかしい

とと思っている。

●桜井 ご要望は手話普及部に伝え、注意を促したい。

●芳本 先ほどの基調報告でアメリカのギャロデット大学デフウェイIIで非常に魅力的な展示を行っているのを見た。でも、日本の場合は資料ばかりで、展示は考えていないのか？展示や説明があれば、発想が広がり感動を受ける。個人で資料を見ているだけでは難しい。ギャロデット大学では、デモや健聴の学長では駄目だと抗議している様子も展示されている。そのような展示方法も考えているのか？

●中根 資料保存は、研究対象になるのかもしれない。しかし、一般の人たちには、このような古い資料があるのだという事を示していかなければならないと思う。その点では、芳本さんと同じ考え方だ。

また、当面必要なことと今後の計画の中に盛り込んでいくものとは分けていかなければならない。例えば、全国ろうあ者大会の開催地に関する資料などを研究員が調査して展示し、大会参加者が見る。次の開催地の資料を調査・研究し、大会で展示していく。将来的には、このようなことも考えられる。資料はみんなが等しく見て学べる事が基本だ。このように考えれば、将来性は広がっていく。私の考えは違っているだろうか？

●桜井 午後からの大杉さんの記念講演の最後で2つのメッセージを話されたが、覚えているか？ひとつは聾史資料室を設立すること、もうひとつは展示していくことの2本立てで行く事だった。展示の基本としては、各地の情報提供施設で巡回展示していく事が必要だ。またろう者による解説も必要であり、そのためには知識も必要だ。日本聾史学会や手話研究所についての知識がある解説員を養成していかなければならない。種を撒き、水を与えながら育てていきたい。問題は人材と資金だ。問題は山積していて大変だが、大きな夢を与えていきたい。資金をどのように集めるのか、その次に人を育てていけば、自ずと拓けてくると思う。これで答えになっているか？質問があればどうぞ。

●美多 改装するのにどのくらいに資金が必要か？見積もりは取ったのか？

●桜井 以前、手話研究所の定期会議の折、高田

氏・大杉氏を交えて話し合った。最低500万円あれば改装できるという事だった。各階を2つに区切るためには最低500万円が必要とのことだった。

●美多 資金の準備は改装前か後か？いつどのようにするのか？タイミングは？

●桜井 まず改装し、その後に整理していく。2階には使っていない広い部屋があるが、どうしていくか？難しい問題だ。

●大杉 補足説明する。1階の4戸を半分に区切る。その半分の部分を改装するだけで500~600万円の見積もりが出ている。もし計画通りに改装すると決定したら、その前に残りの半分の部分の部屋の畳を取り外してフローリングにし、簡単な換気設備を入れる。そこに、現在は本が山積みになっているものを移す。空いた部分に書棚などを作りつけて整理していく。順次進める前に、話をしなければならない。資金を作る方法を決める、皆が本当に必要と決める事が必要。そこを話し合って欲しい。資料室は本当に必要と思っているのか？

●美多 最低500万円あれば良いと思うが、その資金を集める方法は？もっと具体的に明示して進めることが必要と思う。例えば、半分は会員が集める、残りの半分は全日ろう連が組織として集めていくという方法ではどうか？

●桜井 ご意見ありがとうございます。検討してみる。

●中根 資料室の必要性を全国のろう者・通訳者の全てに理解を広げていく、一般人にもわかってもらう事が一番大事だと思う。お金を集めるだけの目的は良いことではない。古い手話のパンフレットを作成し、これが大事にされるのかどうかという危機意識を広めていくこと。以前に、アイラブパンフを有料で普及してきたという経験がある。資料室設立時にも、同じような運動が必要ではないか？

パンフレットを作成、販売しながら、世の中に理解を深めて資金を作っていく。まず、広く理解を求めていく。200円程度のパンフレットを作成し、販売していけば、比較的容易に資金は集まるのではないかと？

●美多 若い時から様々な運動をしてきたが、資金調達方法は皆がノウハウを持っていると思う。是非議論して欲しい。高田さんは、方策を考える

のが得意だと思う。

●戸田 500万円を集めるのは大変だ。一人200円を支払ってもらえば、集まるのではないかと？国民が1円払えば1億円集まるわけだ。

●桜井 ありがとう。カンパの方法はいくつかあると思う。例えば、老人ホームの建設カンパがある。一口いくらで5口以上とか、寄付者の氏名を掲げるとか。今頂いたご意見は運営委員会に持ち帰り、相談したい。カンパは大変。僕自身のろう運動経験は浅いが、先輩の経験を参考にしたい。アイラブパンフの普及運動は良く知らないなので、教えて欲しい。

●大杉 たまたまアメリカに行っていた時期なので、アイラブパンフ普及運動は知らない。

●新開 いこいの村やなかまの里などを立ち上げているので、大阪の人はよくわかっているのではないかと？アイラブパンフの運動があり、サークルや全日ろう連の協力を貰いながら、大阪は運動の強固なところ。カンパも早く集まった。仲間の力は偉大である。ふくろうの郷への支援やアジアのろう者への支援も全国の皆さんの支援のお陰で成功した。一般の人たちを巻き込みながら運動を展開してきた。

●中根 いま、全国的にカンパと聞くと食傷気味になっている。カンパが続いているので、またか？という声も聞く。協力がなかなか得られない状況でもある。古い資料が危機的状況にあるのだというパンフを作成し、知識として普及していく、有料で販売するという運動が必要だ。柳の下の2匹目のドジョウになるかもしれないが、運動をやってみたらどうか？カンパではなかなかお金は集められないと思う。目的は明確にすべきと思う。

●内田 ほかに意見は？

●芳本 着実に進めていくことが必要だ。

●桜井 資料は死にかけている状態。資料が死滅しかけている事実を訴えていけば、危機感を抱いてもらえるのではないかと？先輩たちが守り続けてきたものを次の世代に受け継いでいかなければならない。今あるのは、先輩のお陰である。きちんとした資料を作成することは大事なことだ。

●中根 パンフレットを買い取りたいと思うような資料を添付することも必要ではないかと？

●桜井 いろいろなご意見は、運営委員会に伝え

る。ありがとう。

●新開 アメリカでは、資料はどのように集めたのか？行政の責任はどうなっているのか？

●桜井 ギャロデット大学は国立ではなく私立である。資金を集めて収集しており、世界中からの研究者が学びに来ていて、その資料を見ることが出来る。歴史が長いので、OBや先輩方の力が非常に大きい。環境は恵まれている。日本では、そういう意味では良い環境とはいえない。全日ろう連の組織でもない、大学の組織でもない。筑波大学もこれからだと思うが、そこと協力しながら行なっていこうという方向だ。僕は、先輩が遺してきた物を次の世代に伝えなければならない義務を強く感じている。皆さんの知恵を借りながら頑張っていきたい。

●中根 アメリカの資料の保存状態はどうなっているのか？

●長尾 先ほど全国を巡回展示する話が出ていたが、改装の図面の右半分を展示スペースにするつもりなのか？もし展示スペースにするなら、文化連盟の青木聾米氏やろう者作成の刀剣などを取ってほしい。それらを購入する資金はどう考えるか？

●桜井 それらものを展示した場合、提供者は明記する。僕は、昨年静岡で開催された全国ろうあ者大会の分科会でろう者で始めて外国へ行った園田良介、ロシアからシベリア鉄道でヨーロッパへ行った人だが、その発表を行った。ろう学校の修学旅行で京都を訪れる事が多いと思うが、ろう者が差別を受けてきた歴史や写真などが展示して子どもたちに夢を与えたい。一日でも早くオープンして展示したいという夢は持っている。

●内田 ほかにご意見は？

●長尾 青木聾米氏の展示は見た事がない。だから、展示する必要がある。その購入資金はどうするのか？ろう者作成の刀剣は、最高では500万円。最低でも10万円する。

●芳本 広島原爆資料館では、提供者や寄付者の氏名がきちんと明記してある。それと同様に、長尾さん、桜井さんが提供してくれるなら見た人たちは感動し、運動に積極的に関わるようになる。

●内田 胸像などを展示してはどうか？何もないと意味がわからない。ヨーロッパのウィーン聾学校

と岩手県盛岡聾学校の聾教育室で胸像があった。中根 夢を展示してはキリが無い。資料館としては広いスペースが必要になる。

全国ろうあ者大会のチケット代金に、資料保存のためとして100円を加算してはどうか？皆さんに協力を募るのはどうか？

全国のろう者は、資料保存の必要性・重要性の理解が不足している。そんな中でカンパといっても集まらない。パンフを買ってもらうのが早道になるのかもしれない？当面はそれで凌ぎながら、その先の事を考えられる。一般に理解を広めなければ、考えることも難しくなる。

●桜井 素晴らしい提案をありがとう。日本手話研究所・全日ろう連にどのように伝えるのか？まず上部と話し合い、次に理事と話し合い、大会参加費の中に加算できるのかも含めて協議する。来週、横浜で改革へ向けて47都道府県が集まるので三役会が開催予定と聞いている。そこで決定することになる。

●美多 基本的にはボランティアを募集してやるのが良いと思う。

●桜井 ありがとう。出された課題は、これから取り組んでいく。「登録」と「どこまで知識があるのか」、この2つの問題がある。資料の価値がわかるかどうか。価値がわかる人で知識がある人にボランティア登録して欲しい。そういう人たちを集めて、一日も早く進めたい。また、地域に自主的なろうのクラブがあるので、そこをお願いするのも含めて今後相談したい。

●芳本 保存運動の討議を熱心に出来たのは大変良かった。来年も、同じメンバーで討議を行いたい。

●内田 保存運動は大切。皆さんと力をあわせて頑張りたい。明日の全体会の報告は、新開さんをお願いする。よろしく。

●大杉 情報提供です。手話コミュニケーション研究は「聴覚障害者と歴史」という特集が生まれ、安藤さんの巻頭文がある。4年前に発行したもののだが、アメリカの聾史を纏めた上野ますおさんの特集です。7部残部がある。今回は特別価格200円で販売している。欲しい人はどうぞ。この収入は聾史の資料室設立に積み立てたいので是非ご協力を。

●内田 助言者の桜井さん、ありがとう。お疲れ様でした。